

## 第7回十日町市社会教育・公民館活動のあり方検討委員会 会議概要

日 時：令和2年8月11日（火）19:00～

会 場：越後妻有文化ホール「段十ろう」多目的ルーム

### 1 開 会

委員出席者：岩田委員長、佐藤副委員長、村山(正)委員、生越委員、栢森委員、小島委員、  
佐藤(美)委員、長野委員、村山(ひ)委員、高橋委員 計 10 名

市側出席者：蔵品教育長、金澤部長、鈴木館長、樋口補佐、村山係長、  
春川館長補佐（中条）根津館長補佐（川治）、古澤副館長（吉田）、  
山田（飛渡）、水落館長補佐（下条）、根津館長補佐（水沢）、  
春日副館長（川西）、吉楽副館長（中里）、田辺副館長（松代）、  
村山館長補佐（松之山） 以上 15 名

2 挨拶 蔵品教育長  
岩田委員長

### 3 議題

(1) 公民館が担うべき地域課題解決に向けた取組みについて

- ① 柏崎市 田尻コミュニティ協議会 【別紙1～5】
- ② 長岡市 よいたコミュニティ協議会 【別紙6～10】

※第5回十日町市社会教育・公民館活動のあり方検討委員会で使用した資料をお持ちください。

- ③ 市民アンケートの結果(抜粋資料) 【資料1】
- ④ 十日町市の公民館の現状 【資料2】
- ⑤ 国・県・市の計画と市の関連部局 【資料3】
- ⑥ 生涯学習社会の実現 【資料4】  
(文部科学省：文部科学白書2018から抜粋)
- ⑦ 第3次新潟県生涯学習プラン(抜粋資料) 【資料5】
- ⑧ 第3次十日町市生涯学習推進基本計画 【資料6】
- ⑨ よいたコミュニティ協議会組織図(長岡市) 【資料7】
- ⑩ 田尻コミュニティ協議会組織図(柏崎市) 【資料8】
- ⑪ 中央教育審議会答申 【資料9】

### 視察に参加された委員からの感想など

- ・ 柏崎市と長岡市の2ヶ所を視察したが、名称はコミュニティセンターであるが、全く違う運営を行っていた。柏崎市の方はコミュニティ化してから40年を経過している。長岡市の周辺部の方は、市町村合併後にコミュニティ化に取り組んだことから準備が整

ったところからコミュニティ化を進めていた。特に職員体制が違っており、柏崎の方は、市が協議会に活動補助金を支出し、その中から協議会が職員を雇用していた。長岡市は市が、センター長と主事を会計年度任用職員として雇用をしていた。

また、柏崎の方は、年間 12,000 万円で運営していた。内訳として1世帯から 2,400 円を集めており、年間 570~580 万円の収入。市から 450~500 万円の補助金であった。

柏崎市田尻地域は、中心に近い所にあり 2,400 世帯・人口 8,000 人くらいで元気のある地域と感じた。ただ、この地域でも役員などの選任(後継者選出)が大変との問題もあった。農村というか外れたところは人数も少ないので、もっと大変かと思った。活力の「ある」と「なし」で差が出るのが課題と感じた。

- ・柏崎の方は、町内会長さんが中心となり、組織を作り上げて、住民と共に活動し、会を盛り上げていくというようなスタイル。自分たちで、自分のことを見つけながらやっていくバイタリティーはやっぱりすごいなというふうに思った。長岡市の方は、初めは行政からの指導で、コミュニティ化を進めていたが、動いているうちに仲間となり地域を動かしている。このような体制をみるとこれからの公民館活動で大切なことは、行政からの押し付けだけでなく、地域の人が、自分たちで考えることが大切と思った。

- ・視察にあたり自分でもいろいろと調べたところ、国の方では 10 年以上前からコミュニティセンターというのを推進しているというのを知った。視察先は、コミュニティ化にうまくもいっているから、特別あまり大きな期待はしていなかった。しかし、考えていたより活気に溢れていた地域でした。

田尻地区というのが、住宅とか世帯の平均が揃っている新興住宅地であって、田園地帯で環境もほぼ同じで、あまり旧家とか昔からある農村の中に新興住民とかが流れ込んできているとことでもなく、だいたいその世帯の年齢が似かよっていると感じました。だからこそ情熱がかなり平均化して、意見もまとまりやすかったです。

与板の方は、公民館でいえば人権宣言みたいな感じがあった。そのようなものを謳っているのは、形式がしっかりしていて、幅広い世代からも受け入れやすいような体制をすでに丁寧に整えていると思った。また、与板の方では地域の学びコーディネーターの育成に力を入れていました。それは非常にどこのコミュニティでも公民館でもそうですけれども、やはりきちんとしたリーダー育成がなければ、何カ所も願いする地域をある程度一つにまとめるようなことができないと思っていたので、そういうふうに指導というかプロデュースというのか地域間の問題をくみ上げるとも言っておりました。やはりそういうところは常に行政というわけではなく、そういう地域ごとに学びコーディネーターの育成をきちんと考えているというのは非常に評価できる点でもありました。

- ・視察前は、コミュニティ協議会とかコミュニティというものが、公民館とどう関わっているのかが、よくわからなかった。視察の結果、公民館活動より今までだと町づくりだとか地域振興課でやっているようなそういう集まりなのかなと私なりのイメージを持ちました。十日町市でも地区振興会などで地域の活動を盛り上げていこうということで、様々な活動を行っていますが、それぞれの地区が主体的になって動いているかということ、疑問があるところもあると思います。

視察先のコミュニティ協議会では、町づくりとか地域振興、福祉、公民館活動など住民が関わるものを全部網羅する形で組織ができていた。

与板では、良いところ・悪いところを出し合いながら地域課題を明確にし、その中でさらに活動を実際にしながら組織を作っていたというところは、このコミュニティなり協議会なりを作っていく中で非常に大事なところかなと思いました。

- ・新しい組織をつくるのではなくて、今ある実組織に取り入れて、コミュニティ化を図る仕組みづくりができればいいと思った。

今の行政は、縦割り行政と言われていますが、与板の場合だと公民館と児童館と、福祉センターといったものが全部一体化しているという横のつながりが良いことだと思います。また、田尻の方は地区の皆さんでやっているということで、事務の方も地区の方を選んで雇用しているとか、そういった面でいいなと思いました。

- ・柏崎は地域主導型、長岡市は行政主導型というふうに印象を受けました。柏崎は昭和47年からモデル地区を設定して取り組みはじめ、平成15年に柏崎市市民参加の町づくり基本条例ができあがり、それに基づいて、地域主体の地域づくりを行う体制にしました。一方長岡では、平成10年に市内4カ所にモデル地域を指定してコミセン化に着手しました。与板は平成18年に長岡市に合併しました。合併6年後に全市でコミセン化しようということでコミセン化を実施しました。長岡市は、総合計画で地域コミュニティ活動の推進を謳っており、それに基づいてコミセン化を推進しています。どちらも、コミセン化の方針が出てから6～8年をかけてからコミセン化を推進しています。

田尻は、町内会の組織があり、組織もコミュニティ協議会に属しています。一方、与板では、町内会の取入れは、今後の課題でした。

真似をするだけでなく、十日町らしさ、十日町独自といいますか、そういったものを考えていく必要あると思いました。

## 出された主な意見

※前回、説明した内容配布した資料と今回の視察の報告などを踏まえて「公民館が担うべき地域課題解決に向けた取組みについて」意見を伺いました。

- ・コミセン化した方が、地域の意見が反映しやすいので人が集まりやすいと思う。ただ、地区によっては、うまく対応できないところがあると思う。人材もそれなりに居るところは良いが山間地は苦勞するのかなという印象がある。地域主導型、行政主導型の両方があってもよいと思う。
- ・新しく組織をつくるのではなく、今ある組織(地域振興会)を利用できないか。社会教育、公民館事業は、コミュニティセンターの中にそういう部局があってもいいと思う。運営には、市の職員のリーダーシップが必要だと思うし、地域の方も熱意のある方が必要だと思います。
- ・十日町市を含めた今までの公民館活動は、旧来の公民館活動だけの中で、文化芸術の振興や生涯学習活動や行政主導でやっていたので、人が集まらない中でも例年と同じ講座などを開催していた。

コミュニティセンターは、自発的な人たちが自分たちの住んでいる地域をいかに楽しく、明るく、暮らしやすい町にできるのかというのが前提となっているので、自分たちは何がしたいとかやりたいことがあるので、生涯学習というのも自ずと緩やかな流れにな

って、みんなのやりたいことができるようになるのではないかなと思いました。  
地域に温度差があるので、それをどのように解決するのが、課題だと思います。

- 今の公民館活動だと学ぶということはできますが、そこを活かして今の生活をもう少し充実させようとか先ほどから出ている地域課題解決に向かって行動するとか、そういうところになかなか結びつけるのが難しいと思います。コミュニティ化で、学んだことを活かす解決への道筋をつくれるのかなということの一つ感じました。地域格差、そのやる気はある所は活発になる、そうではないところは、文化的にも公民館活動も全部停滞していく、格差が大きくなっていくということについてやっぱり、コーディネーターの育成ですとか、担い手の育成を最初からこう考えていく必要があるかなということを感じました。
- 公民館では、講座の他にスポーツ振興やはぐくみのまちづくりとか、とにかく様々なことをやっている。それを聞いたときに、他の部局でも同じことをやっているのであれば、それを切り離して、本来公民館が何をするのかと考えると文化的で、芸術的なものをするということでその他のことは、地域でやるものというふうに捉えて、コミュニティ化するという考え方に賛成しています。  
地域格差が出てしまうという課題もあると思いますが、地域でできることは地域でやるというふうにし、公民館はその芸術・文化の仕事というふうに分けるべきなのかなと思います。
- 十日町も昔の状態で居続ける必要はないというか、いちゃいけないのかなと私は感じました。無駄を省くという意味で、どのようなやり方が良いのかわかりませんが、コミセン化というのは必須だなと感じました。
- 時代とともに色々なものがかわってくる。その中で公民館からコミュニティセンターにっていうのも当然考えていかなければいけないと思う。ただ、十日町市は、町内会などの地区の役員は1年か2年の任期なので、センター長など長期的にやって頂けるのか、また、高齢化が進む中で役員のなり手が居るのか疑問があります。コミュニティセンターにただで、課題解決ができるわけでないので、長いスパンで色々なことを一つずつ、こういう視察をしているんな良いところの参考にしながら、十日町市に合ったやり方で、少しずつ変えていったらいいと思う。
- 十日町市の自治組織は、市町村合併をした際に、合併した市町村がそれぞれに地域課題を解決できるようにするために作られたと思っていますが、結局それが実現していないことが各自治組織の中で今大きな課題になっていると思います。その中で、今、公民館もその中に入れるのは、難しいと思います。
- 視察に行かれた場所は、非常に先進的でやる気のある活発な地域という印象でした。ただ、やる気のあるところそうでないところの格差が生じやすいと思います。社会教育は、公的教育の一つであり、格差が出るのは良くないと思っていますので、行政が最後まで格差を生まない教育活動をしていくべきだというふうには私は思います。
- 生涯学習とは、「ゆりかごから墓場まで」と言われています。そうすると地域の課題解決も生涯学習に含まれる。ただ、地域の課題解決は、公民館だけでできる問題でなく、地域振興会や町内会などの地域団体と一緒に解決する必要があると思います。そうすると柏崎のように住民主導で課題解決ができれば良いと思いますが、十日町市の場合は、高齢化が進んでおり難しい地域が多いと思いますので、軌道に乗るまでは、市主導か公民館主導で進めていくのが大切なことと思います。

## (2) 検討委員会の協議結果概要(途中報告)について

### ①あり方検討委員会の協議結果概要(途中報告)

【資料 10】

※第1回から第5回までの協議内容をまとめました。

今回も含め補足の意見はありますか。

### **出された主な意見**

- ・利用料については、利用されている方は、比較的時間やお金にゆとりがある方が多いと思う。そういう意味でも使用料を徴収してよいと思う。昔と違いお金がなくて、教育を受けることができないということが無いと思う。
- ・スポーツにしる、文化活動にしる、自分の趣味にお金を出したくないという人はいないと思う。例えば、公民館は、無料なのに、体育館は有料というのはおかしいと思う。電気がタダではないですし、当然冷暖房もお金が必要ですので、受益者負担は、当たり前だと思うので、100%減免はあり得ないと思う。
- ・一つのコミュニティセンターの大きな場所をつくることによって、人の交流が一か所にまとまり大きな流れを創る。そこから生涯学習や住民の方の拠り所となる趣味などの意見とか話し合いの場ができる。  
公民館活動の規制に捉われるようなことでは無いようなこれからの住民の方々が独自に考えるような文化活動であったり、生涯活動であったりすることが生まれやすいのがコミュニティセンターだと思う。
- ・公民館は、様々な団体が、様々な活動をしてきた。公民館活動の中で講座から持ち上がって市民の団体として利用団体になっている団体も何団体かあります。そういう団体も人間がいなくなって無くなり、また新しく湧き上がってくるのを繰り返しながらずっと70年間という時間を過ごしてきたと思うので、どうしても昔からのことを残していかなければならないということにちょっと拘り過ぎていたのかなと自分で思いました。ただ、今はその時その時感じながら活動していくことが大事なのかなという風に思っています。
- ・地域の人口減少・担い手不足っていうのは昭和30年代からずっと言われてきている。十日町でも人がいなくなった集落がいくつもある中で、これからの地域課題は、少ない人数でも、どう地域が安心安全に暮らしていけるかが一番の課題と思う。このような課題を公民館が、自治組織とも連動していく中で取り組んでいただければ、大変嬉しいと思う。
- ・十日町市の生涯学習推進基本計画の中の生涯学習の理念が掲載されています。『国民一人一人が自己の人格を磨き豊かな人生を送ることができるよう、その生涯に渡ってあらゆる機会あるゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図らなければならない。』ということで、生きる力と言うか、社会において生きていく力を育むのが生涯学習全般に言われることと思います。これを確実に遂行して、どこの地域に住んでいても平等にこの学びが得られるということが確かに確立されることが大事なことであり、実行できるかということが非常に重要になってくるかと思えます。

4 その他

- ・第8回開催日 10月6日(火) 19:00～ 会場：段十ろう  
(議題…提言内容について)

5 閉会 佐藤副委員長 21:00 終了